

第3章 当院を取り巻く環境

1. 医療圏の概況

青森県には入院医療の提供区域として6つの二次保健医療圏（以下「医療圏」という。）があり、当院は其中で東部に位置する上十三地域医療圏に属し、総面積は県の約21%と医療圏の中で最大の広さを有しております。当医療圏は十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村で構成されております。

医療機能ごとの病床数（一般・療養）は表1のとおりで、県全体と比べて急性期以外、特に回復期の病床が少ない状況にあります。また、青森県地域医療構想で定めた令和7年の必要病床数と比較すると、急性期は大幅に上回り、回復期は大幅に下回っております。

人口10万人当たりの病床数等の指標は表2のとおりで、病床数(一般)や診療所数は県全体や全国と比べて少なく、病院数は県全体より少なく全国より多い状況にあります。これに対して、医師数は県全体の約6割、全国の約5割と乖離があり、極めて少ない状況にあります。

表1 医療機能ごとの病床数（一般・療養病床）（単位：床）

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中 (再開予定有)	休棟中 (再開予定無)
青森県	1,284	6,678	2,144	2,481	571	156
上十三(再掲)	87	878	107	174	38	0
令和7年必要 病床数(上十三)	96	506	371	203	—	—

出所：令和3年度病床機能報告、青森県地域医療構想

表2 人口10万人当たり各指標（単位：床、施設、人）

	上十三	青森県	全国
病床数(一般)	700	952	773
診療所数	38.11	52.83	69.98
病院数	6.55	7.27	6.46
医師数	130.4	212.6	256.6

出所：令和3年度青森県保健統計年報、日本医師会 地域医療情報システム、令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計、令和2年国勢調査

2. 医療圏における人口の推移

医療圏の人口については、表3のとおり減少が見込まれており、2045年の人口は2005年の6割程度、2023年と比べても7割程度の見通しとなります。

年代別の人数では、64歳以下は減少し続けていて、65歳～74歳も2023年をピークに今後は減少傾向となりますが、75歳以上は2035年まで増加する見通しであり、2040年以降は全ての年代で減少に転ずる見通しとなります。

年代別の割合においても、64歳以下は2005年では8割近くありましたが、2045年では5割強まで減少する見通しとなります。65歳～74歳は2015年以降14～16%で推移しておりますが、その一方で75歳以上は増加し続けており、2005年の1割から、2045年には3割近くとなる見通しとなります。

表3 上十三地域医療圏の人口推計

(単位：人、%)

	総人口	0歳～14歳		15歳～64歳		65歳～74歳		75歳以上	
		人数	割合	人数	人数	人数	割合	人数	割合
2005年	192,403	28,046	14.6	121,853	63.3	23,234	12.1	19,270	10.0
2010年	183,855	24,751	13.4	112,869	61.4	22,051	12.0	24,184	13.2
2015年	176,307	21,204	12.0	102,965	58.4	25,116	14.3	27,022	15.3
2020年	167,417	18,722	11.2	92,161	55.0	27,607	16.5	28,927	17.3
2023年	165,903	17,636	10.6	91,751	55.3	27,629	16.7	28,887	17.4
2025年	157,599	16,596	10.6	83,408	52.9	24,776	15.7	32,819	20.8
2030年	147,416	14,795	10.1	75,807	51.4	21,097	14.3	35,717	24.2
2035年	137,022	13,113	9.6	68,243	49.8	19,484	14.2	36,182	26.4
2040年	126,275	11,713	9.3	59,743	47.3	19,793	15.7	35,026	27.7
2045年	115,127	10,373	9.0	52,306	45.4	19,094	16.6	33,354	29.0

※各年10月1日時点。ただし2023年のみ1月1日時点。

出所：国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口、青森県の推計人口

3. 医療需要の推移

入院患者数については、全国的に増加傾向にあり、2040年にピークを迎えることが見込まれております。特に65歳以上が占める割合は上昇し、2040年には約8割となることが見込まれております。当医療圏においても、総人口は減少傾向にあり

ますが、医療需要の多い65歳以上人口は2025年まで、75歳以上人口は2035年まで増加傾向にあることから、入院患者数のピークは2035年に迎えることが見込まれております。

外来患者数については、全国的に2025年にピークを迎えることが見込まれておりますが、全国の2/3の医療圏は2020年までにピークを迎えたものと見込まれております。当医療圏においても、既に減少傾向にあると見込まれております。

在宅患者数については、多くの地域で今後増加し、全国、当医療圏ともに2040年以降にピークを迎えることが見込まれております。当院の附属とわだ診療所における訪問診療患者数においても、令和元年の開設以降、年々増加しております。

医療・介護の複合ニーズについては、今後一層高まるが見込まれ、要介護認定率が特に上がるとされる85歳以上人口は全国的、当医療圏ともに2040年に向けて増加が見込まれております。

地理的要因については、青森県は青森市、八戸市、弘前市に医療資源が集中しておりますが、当医療圏は南北に長く、面積も広いことから、医療圏の北部は青森市に近く、東側は八戸市に近い地理関係にあるため、一定程度の患者が圏域外へ流出しております。青森県地域医療構想（平成28年青森県作成）で示された2025年の患者受療動向によると、当医療圏の住民が圏域内の医療機関に入院する割合は、高度急性期で61.6%、急性期で80.4%、回復期で75.3%、慢性期で73.0%となっております。